

平成 29 年第 1 回伊賀市総合教育会議 議事録

1. 開会日時 : 平成 29 年 8 月 29 日 (火曜日) 10 時 00 分
2. 開会場所 : ハイトピア伊賀 5 階 学習室 2
3. 出席者 : 岡本市長、笹原教育長、谷本委員、中委員、長谷委員、内藤委員、
宮崎企画振興部長、児玉教育次長、谷口学校教育推進監、藤山教育環境政策監、
谷口教育総務課長、澤田学校教育課長、山本生涯学習課長、狩野文化財課長、
西尾上野図書館長
4. 協議・調整事項
 1. あいさつ
 2. 協議・調整事項
 - (1) 平成 29 年度主要施策の進捗状況について
 3. その他

〈閉会:11 時 31 分〉

教育次長 皆様、おはようございます。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
ただいまより、平成 29 年度第 1 回総合教育会議を開催させていただきます。それ
では、開会に当たりまして、市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長 皆さんおはようございます。大変暑い中、お集まりいただきありがとうございます。
この総合教育会議は市長が召集するとなっておりますが、その根本はこの地域
の子どもたちにより良い未来を開いていくために、教育行政について協議と調整を
行うものですので、忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。
また、5 月に新しい教育長に就任を賜りました。様々な機会に伊賀の良いところ
は十分にご覧いただいたと思いますが、民間出身であり、広く知見を持っておられ
る中で、違った視点から伊賀の子どもたちについての感想を是非伺いたいと思
います。また教育委員の皆様にもご意見を伺いたいと思います。よろしくお願
いします。

教育次長 ありがとうございます。それでは、協議・調整事項に移らせていただきます。笹原教育長様には、5月29日に就任をいただき、この3ヶ月間で学校訪問を通じて、ご指導いただいているところです。この総合教育会議につきましては、市長と教育委員会が、協議・調整することで教育政策の方向性を共有しながら事業を進めていくということが目的となっております。本日29年度第1回目の総合教育会議ということで、本年度の事業内容をご確認いただくとともに、次年度の予算要求を踏まえ、更に力を入れて取り組むべき事業の進捗状況を各所属長から説明をさせていただき、情報共有をしていただいて、ご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

教育総務課より順次説明をお願いします。

(教育総務課長→学校教育課長→生涯学習課長→文化財課長→上野図書館長

資料1に基づき説明)

教育次長 以上、教育委員会の総合的な事業の進捗状況について説明をさせていただきました。次年度に向けて、財政的、人的な不安がございます。特に教育委員会の業務については、ご存知のように人的な経費や施設維持管理経費が主な事業になっております。そういったことを踏まえ協議・調整をお願いしたいと思います。まず市長から、ご意見を頂戴いたしたいと思います。

市長 様々な事業について、ご報告いただきありがとうございます。

まずは、教育長については、就任後すべての小中学校を訪問していただきました。その感想をお聞かせいただきたいのと、伊賀市の子どもたちを見て、気をつけないといけない点など、何か気づいた事などあればお願いしたいと思います。

教育長 5月29日に就任以来、全小中学校と幼稚園を回らせていただき、授業中のすべての教室を拝見しました。伊賀の子どもたちは、ひと言で言うと「素直」という印象でした。大多数の教室は整然と「目当て」と「振り返り」を明確に示したうえで先生方が教えておられたので、素晴らしいと思いました。しかしその中で、立ち歩き、教室を出て行くなどといった問題を抱えるクラスの現状も見て、それに対しての学校側の取り組みを報告いただきました。教育委員等学校訪問よりも先に学校教育推進監と7月上旬に学校を回らせていただきましたが、立ち歩きといった問題のあったクラスについては、1学期の終わりにはそういった行為が少なくなったという改善報告を受けていますので、2学期に入りましたら、再度見せていただきたいと考

えております。教育委員さんと一緒に回らせていただいた際には、学校マニフェストに基づくアンケート結果の報告を受けました。保護者からは「学校はよくやっている」という意見が非常に高い数値を示しており非常に素晴らしい結果ですが、学校の評価が高いという点に関して、若干の違和感を受けました。それは、学校が主体になって強いことを子どもたちに言わない、家庭に対して強い注文を出さないということが、アンケートの結果に出ているのではないかと感じました。子どもたちを安心安全に教育するということは、学校として当たり前であって、もう少し保護者に対して家庭で行って欲しいことを学校から発信してもいいのではないかと思います。また、全国学力・学習状況調査結果を昨日公表しましたが、こちらについてはきっちりと精査したいと考えております。やはり、家庭・地域と一緒に子どもたちを見ていくという環境が大事だと思います。そういったことから、伊賀の中ではまだまだやるべきことがあると思っています。

冒頭で子どもたちが「素直」と言いましたが、指導者や家庭が指導をしっかりしていれば、本当に伸びて行くと思います。逆に言うと、指導者や家庭が指導をしなければ、伸びないまま育ってしまうという不安があります。なぜこういうことを言うかという、伊賀の中で育ち、高校まで行って、自分の将来が明確に見えていなくても、なんとかやって行けるというようなイメージが子どもたちの中にあるのではないかと思います。教育委員の皆さんとも話していましたが、強い目的意識を本人が持てるように学校や家庭、そして地域がそう思えるような環境作りをやらなといけなと思います。語弊があるかもしれませんが、都会の場合、あまり学校に対して信頼を置いていないのかもしれませんが、自分の子どもに対しては、学校教育以外に塾に行かせ、偏差値を上げるために努力をしている家庭が多いです。しかし、伊賀においては、学校への信頼度が非常に高いと思います。地域の方も一緒に頑張っているというとても良い環境です。そこに甘えていると子どもたちに夢を与えてあげられないのではないのでしょうか。社会は厳しいこともある、やりたいことがあるならば、今何をすべきかを明確に示してあげることができれば、子どもたちも気持ちが前に向くだろうと思います。具体的に周囲が教えてやるということが大事だと思います。これからの社会は、自分の頭で考え、自分で行動し決断するという力が特に必要になってきます。そういった力を付けるための教育にもう少し力を入れていきたいと思いました。

市長

とても、良いお話をしていただきました。全学校を回ってご覧になったからこそ、お感じになったことであつたと思います。

教室が「荒れている」といいます。昔は、自己顕示をしたい、自分の存在を認めさせたいといったもので、権力や組織に対するものでした。今は、立ち歩きといった問題になっています。家庭に対する指導も必要かと思いますが、教育分野からだ

けではなく、社会福祉分野からも総合的に対応するといったプロジェクトが必要だ
と思います。

学力についてですが、点数はテクニックがあれば取れます。教育とはそもそも何
かと言うと、社会に出て行く子どもたちに、困難な環境の中で、どのようにしたら
自分を守り、自らを育て、生き抜いていけるかという強い力を身に付けさせること
です。さまざまな情報が飛びかう社会の中、どの情報が正しいのかを見極める、リ
テラシーを身に付けさせなければならぬと思います。また、よき社会人となるた
めには主権者教育をもっとしっかりとやっていかなければいけません。生まれ育つ
た地域を自分たちが将来支えていくという意識を持って、地域参画、社会参画をす
るということが主権者であるので、そういった点を皆さんにやっていただきた
いです。

教育次長 今、お話いただいた内容につきましては、教育委員の皆様においても、学校訪問
に行っていた中で、共通の認識を持っていただいていたのではないかと思います。
教育委員様からご意見があれば、頂戴したいと思います。

中委員 私は塾をやっていますので、小中学生と話をする機会が多いです。教育長もおつ
しゃいしましたが、特に中学3年生でしたら、受験が目の前に来ているのに全く危機
感が無い子が多いです。自分が今どこに向かって進んでいるのか、何をやりたいの
かが明確でない子が多いです。やはり家庭が一番大切で、家庭の中で会話をして子
どもたちを教育するという環境を作っていくことが必要だと思います。昔は業者テ
ストがあって、自分が県内で自分がどの辺りにいるのかというのが分かりました。
全国学力・学習状況調査の結果についても、自分自身の学力が今どの辺りなのか
見えてくると思いますが、もう少し早い段階で自分の位置を確認ができればいいと
思います。子どもたちにテストの結果を見せてと言うと、恥ずかしいから嫌と答
える子いますが、私は、テストの点数であなた個人を判断するのではなくて、ど
れだけ理解していて、どこが分からないのかを明確にして、今、何をしなければい
けないのかを、そろそろ考えないといけない年齢じゃないのかと言っています。まし
てや、18歳で選挙権を持って世の中に出て行かなければならないわけですから、基
本的なことを学んで社会に出てほしいと学校の先生方は思ったださっているの
に、本人が全く何をしなければいけないのかを分かっているという子が沢山いる
のを目の当たりにして、正直辛いなと思っています。

長谷委員 学校訪問をさせてもらった際の感想ですが、3つあります。

1つ目は、教育長が新たに就任されて、非常に風通しをよくしてくれたと感じて
います。訪問の際に、各校での課題（いじめや不登校などの実態）を報告していた

だき、それに対する対策を聞かせていただきました。昨年までは、それが無かったので非常に良かったと思っています。

2つ目は、教職員の時間外勤務ですが、伊賀市としての取り組みが職員に周知されており、今年度の1学期については一定改善されていると伺いますので、是非評価をしていただきたいと思います。ただ、中学校に関しては部活動があり、そこが課題だと思いましたが、つい最近のニュースで、国が部活動指導員について配置経費の補助を行う方針を出したというのを見ましたので、伊賀市として今後そういったことを活用して、プラスにしていっていただきたいと思っています。

3つ目は、財政が厳しい中で、決して贅沢をしている所は無いと思いますが、未来の伊賀への投資という考えで、もう少し教育環境を良くしてあげたいと思いますので、予算の配分に関して、ご配慮いただきたいと思いました。

谷本委員 文化財の件ですが、天神祭りなど商工会議所はクラウドファンディングで資金を集めたりしているようですが、他の部分に関しても資金が必要ならば、そういったことも活用することが一つの方法ではないのかなと思います。全国学力・学習状況調査の結果の公表についてですが、教育長が判断をされて、発表に踏み切ったということでしょうか。

教育長 私としては、指標としての数字は欲しいと思いましたが、今年度から、平均正答率の小数点以下を四捨五入した整数値で国から提供されたことにより、自治体間の序列化や過度の競争は生じないと判断しました。全国学力・学習状況調査の数値を精査したうえで、学校にフィールドバックをし、学校自身が子どもたちの状況を把握したうえで、どのように教育体制を組み直すかというのが本来の調査結果の利用の仕方だと思います。学校や地域で比較するためのものではないと考えます。また、教育長が代わったから公表したというわけではありません。指標を公表することによって、それに基づいて学校全体の認識を少し変えて行きたいという思いもあって、公表いたしました。

谷本委員 わかりました。ありがとうございました。

教育次長 全国学力・学習状況調査については、分析をしっかりと現場へどのように活かしていくかということが課題だと思います。

内藤委員 今回、初めて学校訪問に行かせていただきました。学力向上の学習面とキャリア教育、地域との協働活動、そして教職員の働き方改革にポイントを絞って報告をいただきました。3つほど気になった点がありましたので、感想を含めお話をい

ただきたいと思います。

1つ目は、教育長がおっしゃった素直な子どもたちに教える力がストレートに影響するのではというお話と同じですが、教員の質という部分です。学力面はもちろんですが、子どもたちのやる気、充実感、いわゆる自己肯定感、自己愛、地域愛といった生きる力を育むのは、教員個々の力が一番影響してくると思います。教員個々の能力が問題ということではなくて、いかにチーム化していくか、いかに育てていくかだと思います。まずは教員の方が充実した職場であることが必要だと思います。それは管理職の方の力も必要ですし、教員を育むという視点で少し考えていかなければいけないのではないかと思います。勤務時間適正化の説明でも、若い先生を育てるためのチームづくりも考えていきたいとおっしゃっていたので、そういった部分がまず必要ではないかと思います。

2つ目は、働き方改革についてですが、改善の方向に向かっているということで、非常に頑張ってもらっていると思います。時間を減らすために、行事を抜本的に見直すといった工夫もしていただいている中、一番気になったのは土曜授業です。どの学校でも土曜授業がネックになっているような気がしました。今年度10回から8回へ縮減して改善もされているようではありますが、生徒が土曜授業を生活のリズムの中に存分に取り入れていない気がしますし、中学校の部活動の時間配分が学力に影響が出るというようなお話もありましたが、先生への負担が土曜授業の時間数のみならず、土曜授業をするための負担というものがあると聞かせていただいたので、もう少し考える余地があるのではないかと思います。

3つ目は、財政の問題がありますが、教育環境の質的向上についてです。大規模な改修等は先に進められて、小さな問題がずっと後回しになっています。学校も持ち兼ねているというような状況です。そういった部分に予算が回ればいいなと思いました。もちろん地域やPTAとの連携で工夫して改善していただいている学校も沢山ありますが、すべてうまくいくわけではないので、そういった所まで予算がいくように御配慮いただけたらと思います。

教育次長 教育委員様から色々なご意見をいただきました。教育費予算については財務部局とも協議をしていかなければならないと思います。

市長 財政が厳しい中で、ご苦勞をいただいております。教育というのは、投資をしたからといって、すぐに結果が返ってくるものではありませんが、投資をしなければ将来の子どもたちが育たないということは事実です。対費用効果で計れるものではありません。そういった中で必要なものに対して、どのように財源を生み出していくのかということの難しさがあるわけです。一般的な市政の中で、今期、私が申し上げている「ガバナンスの確立」というコンセプトがあります。課題を行政だけが

抱えるのではなく地域・組織・企業が参画しながら目的を達成していこうということです。今までは学校とPTAとの話で済ませてきましたが、そこには地域が入ってこなければいけませんし、クラウドファンディングやふるさと応援寄附金の中に、地域の教育に使うというような項目があってもいいです。世界に飛び立つ子どもたちのために、もう少し大きい視野の中で考えていくことが必要だと思います。

部活の話がありましたが、たとえば卒業生などを通して人材を確保し、指導にも参画いただくなど、垣根を取っ払って皆で支えるということが必要になってくると思います。やはり、先生方には「ゆとり」を持っていただきたいと思います。今年度は教育長に、夏休みはしっかりと取れるようにとお願いをしました。子どもたちにとって先生はとても大事なポジションです。「ゆとり」を持つというのは、教材研究をしっかりやっていただき、地域に参画していただき、そして自らの家庭のケアをしっかりとしていただくということが大事であって、そういった中で子どもたちに与えられる「ゆとり」が出てくるのではないかと思います。

学校の整備については、私の子どもの頃は、草引きなど皆で授業中にした覚えがあります。労役ではありますが、それが学校への愛着や、皆で行う面白さや大切さに繋がりました。学校の環境を整えるのは、お金だけでは済まないということです。

今朝、北朝鮮から太平洋に向かってミサイルが飛んだというニュースがありました。大事なことは、今日の未明に飛ぶということが予測できていたのか、或いは飛んだらどういった対応が取れるようになっていたのかという検証が大事だと思います。なぜこの話をするかというと、学校教育の中で、必ず「いじめ」というものが出てきます。最悪の事態に至った時に騒ぐのではなく、現状を把握できているかが一番大事ですから、我々と教育委員会で協力してやっていく必要がありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

教育的に不利な環境にある子どもの話がありました。日本は国連の児童の権利に関する条約に批准しておりますので、日本人であろうが外国人であろうが日本に住んでいる子どもたちに、行政はきちんとした教育とケアをする義務があります。伊賀市は外国の方が多いですから、しっかりと教育環境を担保してあげられるようにしていきたいと思います。

教育次長 取り組まなければいけない課題は多々あります。今日は主に教育大綱の「基本方針2 生きる力を培う教育」「基本方針3 郷土理解と主権者の自覚を培う教育」といった部分で深くお話をいただいたと思います。市長のお話を受けて、教育長いかがでしょうか。

教育長 伊賀市は外国人の子どもがとても多いです。小学校233人(5.3%)、中学校64人(2.9%)です。やはり言葉で苦労されているという状況です。支援が必要な子ども

もが沢山いる中で、対策を立てるとなったら補助員を配置するといったことになってきます。そうすれば予算が伴います。問題は山積しています。先生一人ひとりの能力を発揮していただける環境づくりが必要です。色々なバランスをじっくり考えていきたいと思います。

市長 対処療法だけではいけませんので、根元から絶たなければいけません。
教育委員会でクラウドファンディングをやってはどうですか。

教育次長 考えていかなければいけないと思います。

市長 基金を募るわけですから、そういったことを通じて、地域に参画しているという自覚ができれば素晴らしいと思います。わたしも、アフリカの子どもたちに寄附をしてあげたいと思いますが、問い合わせ先が分からなかったりします。よりアクセスしやすい方法で、できたらいいと思います。

教育次長 ありがとうございます。色々ご意見をいただきました。教育には人の力、地域の力が必要であるということが認識できたかと思います。

市長 小学校というのは、地域の核であり愛着があるものです。子どもは地域と一緒に育てていくものですから、その辺りの認識の周知を地域にしていきたいと思います。

教育次長 企画振興部長いかがでしょうか。

企画振興部長 企業版のガバメントクラウドファンディングですが、中々利用が伸びていないようです。伊賀市はふるさと納税をしていただいています。現実的には税控除をしますと400万円程度しか収益が無いという状況です。

最近、経産省の若手プロジェクトの報告書が話題になっていまして、「不安な個人～立ちすくむ国家」という報告書へのダウンロードが140万件超えを記録したということです。これはモデル無き時代をどう前向きに生き抜くかという副題で、昭和の時代でしたら終身雇用や結婚をして家庭を作り、生涯添い遂げるということが当たり前でした。当たりの価値観が失われてきており、今ではシルバー政策が日本の中心で、80歳以上の国民医療費に約2割も使っているのか、というような非常にシビアな問いかけの中で、今後日本は、人材育成にもっと財源を使うべきだという提言がされておりました。今お話いただいていた、教育、人材育成にどれだけシフトしていけるかというのが、国家的な課題ということですので、伊賀市の中で

どれだけ重点を置いてやっていけるのかといったことも考えさせていただきました。

市長 伊賀というところは、信州と同じように教育に一生懸命なところですよ。1900年に運動を起こして、三重県立第三中学校を設立したり、図書館を造った時には蔵書は町の人たちが一冊ずつ寄附をして揃えたそうです。寄贈したことが書かれた本が今も残っています。また、多彩な人材を多く輩出して、日本の社会を支えてきました。改めてそういった人たちを見てみると、伊賀人はすごいなと思います。過去支えてくださった人たちによって今があって、それを次の時代に繋げていかなければなりません。世界に羽ばたいて行く若者にも愛着を持っていただいて、最後は郷土に戻ってくるわけですから、教育の重要性を認識していただきたいと思います。

教育次長 本日の会議でのご意見等を踏まえまして、教育委員会として本年度の事業を進めて行きたいと思います。本日はありがとうございました。